

最近、莫名忙碌的本人日記

最近、妙に忙しい私の日記

My Diary to record Why I Have Been Busy Engaging in Ainu Activities Recently

文・圖 | 原田公久枝 HARADA Kikue
(愛努民族文化財團指導員)

譯者 | 陳由璋 (政治大學民族學系博士生)

文責・圖 | 原田公久枝 HARADA Kikue
(アイヌ民族文化財團アドバイザー)

訳者 | 陳由璋 (政治大學民族學科博士後期課程)



2013年から始まった「イランカラッテ」キャンペーンのロゴマーク。アイヌ語とアイヌ文様を組み合わせたデザインを使用し、アイヌ語の「こんにちは」で北海道の特色を押し出している。(出典:「イランカラッテ」キャンペーン推進協議会 <http://www.irankarapte.com/>)

2013年迄今産官學合作舉辦的irankarapte活動標誌。設計概念結合了愛努語與愛努紋樣。以愛努語的您好打造北海道的當地特色。(圖片來源:「イランカラッテ」キャンペーン推進協議 <http://www.irankarapte.com/>)

私はある所で機関紙を配って集金するパートをしている主婦で、仕事をしている時やごはんを食べている時、普段の生活をしている時は日本人(フツー)の世界にいたいと思っていて、アイヌのイベントに出演したり見に行ったり、儀式に出たり見に行ったり、トンコリや歌の練習してる時や授業したり講演してる時、あとは原稿書いてる時なんかはアイヌの世界にいたいと思ってる。さて私は色々あったのと生活に忙しくて15才から40才までアイヌの世界から離れて暮らしていたが、あるきっかけでアイヌの世界に戻ってきて10年が過ぎた。なんだかあっといふ間だったし、このスピード感のまま、次の10年もすぐに過ぎるんだと思う。

我是在某處寄發機關刊物和收錢的兼職主婦，工作的時候、吃飯的時候，過平常生活的時候，我覺得我是在日本人(普通)的世界，在登台或去參觀愛努的活動，參加、參觀儀式、練習tonkori¹、歌曲時、又或是教學、演講時、還有就是寫稿時，我覺得好像置身於愛努的世界。這也就是我有許許多多的事情，讓我生活忙得不可開交，從15歲到40歲為止，我的生活是離開愛努的世界，是因為某個契機之下，我才回到愛努的世界後經過了10年。我總覺得這段時間好像轉眼即逝，以這種速度感，我想也會很快地渡過下一個10年。



◎譯者註

1. tonkori是愛努的傳統弦樂器，為六弦或五弦，以五弦居多而又稱五弦琴。tonkori是豎琴類的直立琴，琴身形狀類似劍。用兩手撥弦彈奏，以第三弦為中心各弦左右對稱，從中心弦由內向外彈奏為主，原本分布於庫頁島愛努地區，北海道愛努主要是戰後才開始保存彈奏。

目玉親父的フンペの姉(※)

就像眼珠老爹¹一樣的humpeta姊妹(※)

(譯者註: 眼珠老爹是漫畫《鬼太郎》主角鬼太郎的父親，形象是頭戴一顆眼珠的小人妖怪，扮演照顧鬼太郎的角色)

10月の私の日々

2018年10月と11月のスケジュールを書き出してみよう。10月2日は昼まで仕事してから車で恵庭に行き、神奈川からの修学旅行の高校生300人弱に千歳アイヌ文化保存会の方と一緒に、歌・踊りを教えて、3日は仕事終わりで自転車でFMアップルという地元のラジオ局でアイヌ文化や活動のことを話し、5日に盛岡に飛んで、6日にアイヌ文化フェスティバルで歌い、その日の内に(台風の影響で飛行機が飛ばなかった)新幹線で函館に、函館からはスーパー北斗で札幌へ。8日は自由学校遊という札幌のNPOの集まりで友人と少し話し、9日は新しく作った、縄文太鼓とトランペットとアイヌの歌のユニット「レトラ」の練習が仕事終わりにあって、10日は仕事の

我10月的每一天

我試著寫出2018年10月與11月的行程。10月2號到中午為止工作完後開車到惠庭，與千歲愛努文化保存會的成員，一起教畢業旅行從神奈川來的不到300人高中生歌曲、舞蹈，3號工作結束後，騎腳踏車到FM apple的當地廣播電台，講愛努文化與活動的事情，5號則飛到盛岡，6日在愛努文化節上演唱，當天之中(因受颱風的影響，飛機停飛關係)，搭新幹線到函館，再從函館搭super北斗號到札幌。8號因叫做「自由學校遊」的札幌NPO聚會與朋友稍微聊聊，9號工作結束後，有新成立的繩文太鼓與小喇叭



「funpesisters」メンバー コウダイ（※この姉の息子）
「humpesisters」成員koudai（※姐姐的兒子）



「レタラ」HITARUデビューメンバー
「retar」HITARU第一次登台成員



「レタラ」上記以外のメンバー
「retar」上述以外の成員

合い間に、友人に頼まれて75才のフランス人の研究者のご夫妻に、北大のまわりに残るアイヌ文化の案内をして、11日は大阪・天満のイタリアンレストラン「ケラピリカ」のシェフが、札幌の店の厨房を借りてアイヌの関係者（同庁とかの偉いさんとか）にアイヌ料理とイタリアンを融合させた料理を提供する場でちょっと歌わせてもらい、12日は新しく出来た創成スクエアビルの市民文化発信の為の施設「hitaru」でHTB創成スクエアまつりでの舞台にレタラとfunpesistersとして出演し、14日は北海道新聞のコラム『朝の食卓』の9回目のめ切日で原稿を送信し、17日は昼まで仕事のあと、札幌の生涯学習施設「ちえりあ」での授業で、北大や、精華亭という明治天皇行幸の際のお休み処とアイヌの関わりの

與愛努歌曲の組合團體「retar」²の練習、10号工作的空檔時、受友人請託、為75歳法國的研究者夫妻、在介紹北海道大學附近所遺留的愛努文化、11號大阪、天満的義大利餐廳「kerapirka」³的主廚、借用札幌店的廚房、提供愛努的相關者（好像同廳之類的高官）愛努料理與義大利菜融合的料理、在此我也受邀稍微演唱了一下、12號在新蓋好的創成廣場大樓中、為傳遞市民文化的設施「HITARU」裡所舉辦的HTB創成廣場祭上、我在活動舞台以retar與humpesisters⁴成員演出、14號於北海道新聞的專欄《朝之餐桌》的第9次截稿日寄出原稿、

案内をして、夜はFMアップルで話し、19日に大阪入りして20日は、人権博物館リバティ大阪のクロージングイベントでパフォーマンスして、27日は友人の牧師さんに頼まれてクリスチャンセンターで「アイヌの現状」を話し、ここまでが10月ね。

11月の私の日々

11月1日は仕事の後、レタラの練習。2日は車で帯広に行って北教組の分科会で『アイヌモシリ・北海道の教職員に伝えたいこと～「北海道150年」をどう教えますか？～』というタイトルで話し、この時の全体での講演者が、子供の頃ずーっと見ていたNHKの「できるかな」ののっぽさんで！ 84才とは思えない軽快なタップダンスとお話に感動しました。3日

◎譯者註

- retar為愛努語，意思是白色的。
- kerapirka為愛努語，意思是美味。
- humpesisters是愛努語humpe（鯨魚）與英語sisters（姊妹）結合的自創語。
- chieria是札幌市終身學習綜合中心的簡稱。
- ainumoshir是愛努語，ainu是人或愛努人，moshir是大地或國土之意，本字有愛努人的土地或人的國度之意。
- noppo先生（1934年5月10日-），全名高見のっぽ（TAKAMI Noppo），本名高見嘉明，是日本的演員、作家。京都府京都市右京區太秦出身。在NHK兒童教育節目『なにしてあそぼう（要玩什麼呢）』、『できるかな（不知道會不會）』（1966年-1990年）中，擔任不開口說話的角色「noppo先生」，因此被日本民眾稱為noppo先生。

17號工作到中午，之後在札幌的生涯學習設施「chieria」⁵講課，介紹北海道大學與明治天皇行幸時的休息處「精華亭」跟愛努有關部分，晚上在FM apple談話，19日到大阪，20日在人權博物館自由大阪的封館活動中表演，27日受牧師友人之託，到基督教中心演講「愛努的現狀」，到此為10月部分。

我11月的每一天

11月1號工作完後是retar的練習。2號坐車到帶廣後，在北教組的分科會上，以『ainumoshir 想傳達給北海道教職員的事～您是如何教導「北海道150年」呢？～』⁶為題目演講，當時全部的演講者，大家都因小時候常收看的NHK節目「不知道會不會」中的noppo先生⁷，以意想不到的84歲之姿所跳出的輕快



「木の芽」メンバー ©く&@りこ&@ぐみ
「木の芽 (kinome)」成員 ©ku&@riko&@gumi



フンペのCD 全然売れてませんが、
humpe的CD 雖然都賣不出去。

は知り合いが帯広市文化賞をいただくというので、その授賞式を見に行き、5日は仕事の後、レタラの練習。7日は札幌市議の市政報告会でレタラでパフォーマンス。9日神戸に飛んで大阪のケラピリカさんで食べて、10日は奈良でフンペシスターズの姉と2人で歌って、歌・踊りのワークショップ、私がアイヌとして活動する現状のお話をして、姉が、アイヌの儀式やイベントのお話。11日に札幌に帰って、3日間仕事したら15日から19日はタイのバンコクへ、高島屋に「どさんこプラザ」という北海道のアンテナショップが出来るので、そのオープニングで歌いに行きます。20日は道新『朝の食卓』10回目のメ切り、きつとタイでのことを書きますね。21日は昼まで仕事の後、「ちえりあ」の授業でアイヌの歌や踊りの話。夜はFMアップル。22日はまた違う市議の市政報告会でレタラでパフォーマンス。29日は栗山小学校で9時～12時半までアイヌ文化に関する授業を受けもち、12月8日は、ジョン・レノン追悼コンサートで、又違うユニット「木の芽」でパフォーマンスします。

踢踏舞與談話所感動。3號因為朋友受頒帶廣市文化賞，所以去參加頒獎典禮。5號工作完後是retar的練習。7號在札幌市政報告會上以retar進行表演。9號飛到神戶到大阪「kerapirka」用餐，10號在奈良與humpesisters的姐姐兩人一起演唱，在歌舞的工作坊上，我以愛努身分講述活動現況，姊姊則講述愛努的儀式與活動。11日回到札幌，工作3天後到泰國的曼谷，在高島屋中所成立叫做「道產子廣場」⁸的試賣店，在店鋪的開幕式上唱歌表演。20號是道新《朝之餐桌》的第10次截稿日，我想一定會寫在泰國的事情。21號工作到中午，之後在chieria的講課中講述愛努的歌舞。晚上則到FM apple。22號則又到不同的市議的市政報告會上以retar進行表演。29號在栗山小學9點到12點半為止負責愛努文化有關授課，12月8號，在約翰藍儂追弔演唱會，以不同團體組合「木の芽」進行演出。

なぜアイヌだけが考えなければならないのか

あと、本州から友人の教授が来ると、私が運転して白老や二風谷に乗せて行く間しゃべるんだけど、一昨年（おとし）に「きくちゃんは10年もアイヌの世界にいて勉強してるんだから大学生でももう院とかに進んで論文の一本も発表しておかしくないから、そろそろ自分なりのでいいから何か答えを出して発表するべきだよ」と言われて考えた考えた。でも元々が中卒で、しかもお勉強が出来た子供でも無かったのに、40才になってから少々大学で勉強したからって、レベルの低い所から始まるし、バカの考え休むに似たりとはこのこと。答えなんか出ないのよ。ちょうどその頃、平和学会に呼ばれてたから、そこで発表しようと思うのに何も出なくて段々頭に来て、何で私ばかりこんなに考えなきゃなんないのよ！！って怒ってつけたタイトルが「なぜアイヌばかりが考え、答えを出さなければならないのか？」でした。だってアイヌはアイヌってだけでいじめられて勉強もままならないどころか、うちの姉弟みたくいじめによる不登校も多い中、いじめられてる側が無い頭で考えたところで何も変わらないのよ。いじめているマジョリティ側が考えて、いじめめるのをやめてくれないと何ともなるわけ無い！という結論になった訳。それはインパクトがあつたらしく、『週刊金曜日』という雑誌にも載せてもらいました。10月27日のクリスチャンセンターでの講演の時、このことを話したら、終わってすぐ60代とおぼしき女性2人がかけ寄って来てくれて、「貴女のおっしゃる通りよ！考えるのは私達の方！！その教授のお友達は間違っているわ、頭の良い方かもしれないけど間違えることもあるのよ。今日のお話を聞いてまず、聞いた私達から考えなければ！」と思いまし

為什麼只有愛努人必須要思考

之後、從本州來的教授友人來找我，我開車載他到白老和二風谷的途中有聊到，前年我被他說：「公久妳已經花10年在愛努的世界學習，即使是大學生也都升學到研究所發表一篇論文都不足為奇，以妳自己的方式也可以，也差不多該提出什麼回答來發表吧！」之後就不斷思考。但我原本就是中學學歷，而且明明家裡連入學的小孩都沒有，到了40歲才開始稍微在大學讀書，我也是從程度低的地方開始，可以說就是「蠢材想破了頭還不如休息」這種情況。哪會有什麼回答啊。剛好當時，被和平學會邀請，我本來想在那發表但什麼都寫不出來，漸漸地怒火中燒，我生氣地想說「為什麼只有我必須要這樣想破頭呢！！」，所以將標題訂為〈為什麼只有愛努人必須要思考，必須要提出回答呢？〉。明明愛努人只因為是愛努就被霸凌，連書都無法好好讀，更何況很多是像我家的姊弟一樣因為霸凌而沒去上學。被霸凌的一方頭殼空空，就算花腦筋思考也沒什麼改變。占多數的霸凌一方去思考，實在也不可能會讓霸凌遏止。所以這便是我的結論。這個論述好像有所衝擊感，所以《週刊金曜日》這本雜誌也就幫我刊登文章。10月27日我在基督教中心演講時，我談到這些事後演講結束時，馬上有看起來像60幾歲的兩位女性來找我，一

◎譯者註

8. 道產子是指北海道出生的土生土長北海道人的稱呼。

た。ちゃんと考えますから…」と涙ながらに言ってくれました。

最近、思ったこと

あと少し前の話だけど、7月22日に「アイヌにとっての開道150年とは」っていうシンポジウムで私は、50年前の開拓百年記念塔の出来た時に戸塚美波子さんが道新に投書したように、「この地にはアイヌの血と涙がしみわたっていることを知った上で、式典でも何でもやれば良いと思う。」とヒニクを込めて言いましたが、その質疑応答の時に、一人のオジサンが手を上げて「わしはね！ アイヌはすごいなー！と尊敬しておった位でね！体も強いし、走っても速いしね！ただね（頭を指して）ココがね、ちょっとだけ弱いつて言うかね…それとニオイがね！ちょっとキツくてまいった位でね！わしのまわりの人らはアイヌを差別なんてしてなかった、わしも尊敬してた位でさ、だから今はアイヌに対する差別なんて無いべき！」という感想ともつかないことをしゃべって皆をしらけさせたが、ある先生が「今ご意見を言われた方なんですけど、自分のまわりにはアイヌ差別は無かったから、今はもうアイヌ差別は無い！」と断じてたんですけど、それは暴論もいいところで、それではですが“私のまわりにはチカンに合ったことのある人がいない。だからチカンはいない”とか“私のまわりには交通事故に合ったことのある人はいない。だから交通事故なんて無い”と言ってるのと同じことですし、おつむがちょっと、とかニオイがクサイって言ってることこそが差別なんです？そして主催者の方々も、こんな意見を言わせっぱなしにするとは、どういう了見でこういう場をもうけているのか理解に苦しみます。」と言ってくれまし

邊流涙一邊跟我說：「妳說的沒錯！要思考的是我們這邊！！妳那位教授朋友錯了，他雖然很聰明但他也是會弄錯的。今天聽妳說的事情後，我想，首先是聽到這些的我們必須先去思考！先要好好去思考…」。

最近想到的事情

還有就是稍微之前的事情了，7月22日「對愛努來說開道150年是什麼」這場研討會中，我就像戶塚美波子女士在50年前蓋好開拓百年紀念塔時投書給道新一樣，語帶諷刺地說：「我想大家在知道這塊土地染遍了愛努的血與淚後，在典禮上如果能做些什麼就好了」，但在開放提問時，有一位歐吉桑舉起手後：「我啊！覺得愛努人很厲害！讓我覺得敬佩！身體強壯、跑得又快！只是啊（指著頭）這裡啊，可以說這有點不行啊…還有就是體味啊！就有點讓人受不了啊！我周邊的人根本沒有人歧視愛努，我也很敬佩他們，所以現在對愛努人根本沒有什麼歧視！」，他所說的連感想也談不上，讓現場的來賓們感到尷尬，但是某位老師幫忙說到：「現在分享自己意見的這位先生堅持說，自己身邊沒有愛努歧視，所以現在已經沒有愛努歧視，但這就剛好是不講道理，那個這麼說，那不就跟說『我身邊的人沒有遇過痴漢。所以就沒有痴漢』。或是『我身邊沒有人遇過交通事故，所以根本沒有交通事故』是一樣的。還有說腦

た。私は目をひらかれる思いがしました。10年位アイヌの世界にいて、発表する場もまあまああって、こういう非道いあつかいにも慣れちゃっていたんだなあと。差別心のカタマリをぶつけてくるオジサンも、それをたしなめない主催者も、アイヌをいじめている張本人なんだ。こういう人々を見逃してのさばらせちゃいけないんだ！と思いました。まだまだ経験も足りないし、日々のイベントや講演や切をこなしていくのが精一杯の、その日暮らして行きあたりばったりなアイヌのオバチャンだけど、毎日頑張っています。◆

袋稍微有點、或是體味難受這件事不就是歧視嗎？還有主辦單位的各位也是，讓這樣的意見放言高論的話，這樣的見解在這個場合大家要如何接受實在讓人難以理解。」這讓我感到有所醒覺。10年多來我在愛努的世界，也有不少發表的機會，我也不經意地習慣像這樣無情的對待了。不管是將歧視心完全展現出來的歐吉桑，或是不進行任何規勸的主辦單位，他們才是霸凌愛努人的真兇。我想不可以忽視這些人，而讓他們霸道蠻橫。我的經驗還是不足，我這個愛努歐巴桑，要應付渡過每日的活動、演講、截稿日，就讓我當天費盡心思，只能聽天由命，但我每天還是繼續努力著。◆

作者簡介 | プロフィール

原田公久枝 (はらだ きくえ)
アイヌ民族文化財団アドバイザー

1967年10月31日生まれ、51才。
河西郡芽室町出身、札幌市在住。18才年上の夫あり、子供なし。中学生の時にアイヌの血をひく子供は産んでも仕方ないと思ってしまった為。中学1年の時に人権擁護委員会の作文コンクールにて最優秀賞を受賞、友人から頼まれて個人で出版している雑誌などに文章を寄せているうちに現在は北海道新聞のコラム『朝の食卓』を書いています。



原田公久枝 HARADA Kikue
愛努民族文化財団指導員

1967年10月31日出生、51歲
河西郡芽室町出身、現住札幌市。有大自己18歲的老公，但沒有小孩。因為國中時認為自己流有愛努的血，所以要是生小孩不知該怎麼辦。國中1年級的時候，在人權擁護委員會的作文比賽榮獲最優秀獎。受友人請託，將文章投稿到個人出版的雜誌等處，同時現在執筆北海道新聞的專欄『朝之餐桌』。